

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400088	
法人名	有限会社 伊野本陣	
事業所名	認知症対応型共同生活介護 やまもも	
所在地	島根県出雲市美野町504	
自己評価作成日	平成23年2月25日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス	
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111	
訪問調査日	平成23年3月28日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設4年が経過し、職員の入れ替えがほとんどない。職員、管理者、オーナーとの距離感もほどよく、意見を言いやすい関係が築けてきている。
現在はOJTも初め、職員個々のレベルアップを目標としている。小規模な施設であり、利用者の方とも個別として関わられる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宍道湖の湖岸の町の住宅街に、グループホームやまももは「共に喜び共に楽しみ共に笑って共に過ごす」をケア理念に、小規模多機能施設、認知症対応型デイサービスとの複合型施設として4年目を迎える。施設の行事や地域を対象とした茶話会等を足がかりに、地域との関わりも深めつつある。いかに利用者の望む暮らしに近づけられるか、家族との面談を通して再アセスメントし本人本位に検討を重ねる努力を行っている。全職員が気づきや意見を出し合い、積極的な外出支援を始め、よりよく暮らしてゆくためのアイデアを速やかに実践している。職員は活き活きとした様子に見受けられ、長く暮らす利用者は「ここは良い所よ」と笑顔で話され

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念、ケア理念をホールなど見えやすい場所に書いてある。	経営理念およびケア理念が、施設内各所に掲示されているとともに、日々の朝礼でケア理念を唱和することで職員に浸透している。ケアのよりどころとしても文言が平易で親しみやすく、家族通信にも掲載され指針を伝えている。地域密着型サービスとしての意義は職員間で認識されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本陣まつりなど行事を地域の方、地元のボランティア等近隣の人も含めて参加していただいている。	法人で開催する本陣まつりには、地域住民をはじめ老若男女200人のが来訪した。バーベキュー大会などの施設内の行事に近隣の子どもが参加したり、中学生の職場体験の受け入れなどを実施している。地域との関係を育む努力を続けており、離苑した利用者に対して近隣住民より情報が得られたりと地域に支えられる場面もある。	大きなイベント開催により周知もなされつつあることから、今後日常的なつきあいが期待される。地区自体も高齢化が進んでいる中で、ホームの力で貢献できることを模索しながら、今後さらに良好な関係作りが進むことが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して行ったことはあるが、地域の人々に声を掛け合ってはまだ行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催して、施設の取り組みを地域の方に報告し、意見をいただいている。	併設の小規模多機能事業所と合同で2ヶ月毎に開催されている。今年度は内容の工夫に取り組みされ、地域の方に向け介護保険制度の説明をされたり、協力医療機関からの出席もあり意見を頂いたり、看取りケアの講習につながったりと、サービス向上に活かされている。	今後はボランティアの方の参加も予定されるなど、参加メンバーの活性化にも努めておられるが、今後は家族にもより多く参加して頂けるような工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者、責任者がその都度電話連絡や足を運び連携をとるようにしている。	運営推進会議に市職員と地域包括職員の参加があり、意見を頂いている。地区の福祉フェスティバルに参加し協力されている。必要時、相談できる関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けており、現在思案中であり、勉強会を立案中である。目標を掲げ、職員全体で取り組む。	身体拘束委員会を立ち上げ、ホームとしての基準を明確にしている。ホーム玄関の施錠は、夜間に限られており、利用者は自由に外の空気を感ずることのできる環境である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を設けており、現在思案中である。 月1回話し合いもしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員しか学んでおらず、職員への徹底が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を設け、重要事項説明書に基づき納得した上で入所していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一回家族に状態等の電話連絡をしている。	居室担当者が毎月家族へ電話連絡をしている。家族が管理者や職員に率直に希望や要望を表しやすい関係になっている。些細な意見でも丁寧に聴き、速やかに対応している。じっくりと時間をとった個別の家族面談を今年度初めて実施し、有意義な機会となった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見をこまめに聞けるよう、話しやすい雰囲気作りにも努めている。現場からの意見は、まず行ってみようとしている。	ケアの気づきを書き留める「なんでもノート」を活用し、利用者がよりよく暮らすための意見や提案を各職員が積極的に行っている。職員相互、職員と管理者のコミュニケーションも良好で、素早い反映に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	OJTを取り入れ職員一人一人との話し合いの場を作っている。給与水準等はきちんと見直しをし、能力により給与支給をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の向上のため、各種研修に参加できる体制を作っている。施設内の研修も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域での連絡会を持ち、情報交換をしている。、他施設からの訪問も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査を行い、本人、家族、他事業所に話を聞き、当施設のことも説明しお話している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時に家族に話を聞きとり、ケアに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じ他施設を紹介したり、他施設とも情報提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に出掛けたり、感情表現をともにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えていけるよう、家族とのコミュニケーションも密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの知り合いの方が面会に来られたり、手紙のやり取りをされている方もいる。	利用者家族はもとより、古くからの知人、かつての同僚の訪問も多く、関わりの継続性を大切にしている。毎月自宅の仏前での拝みを希望する利用者や、故郷の馴染みの美容院での再会を果たす利用者などがおり、それぞれに支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で言い合いになられることもあるが、その都度間に入って仲立ちをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も施設で行われる行事には連絡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には、本人に聞き作成するようにし、本人の希望を取り入れるようにしている。	センター方式を活用している。初期のアセスメントにとどまらず、家族面談を実施し生活歴を聴くなどして再アセスメントを重ね、より深く利用者の思いや暮らしの希望を把握できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査時に本人、家族に聞くようにしている。また日々の生活の中でも話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握している。その日の心身状態に合わせ介助するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、居室担当者、家族の話を聞き、ケアプランを作成している。	可能な限り家族にも担当者会議に参加してもらうほか、チーム関係者で介護計画作成にあたっている。計画に沿った毎日の記録が整備されており、3ヶ月毎の評価につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録用紙を作成し、気づき等記入出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診送迎は基本的にホームで行っている。希望に応じて外泊される方もいる。今後も個々に合わせていくつもりである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者個々で出来ることを把握し、その都度手伝ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療提携機関と提携しており、必要に応じて適切な医療を受けている。何かあった場合は、家族への状態報告を行っている。	本人及び家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関との連携体制があり、夜間の急変にも対応してもらえる関係を結んでいる。認知症専門医について、総合医療センターにおいて確保できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあればその都度看護職に相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携を結んでいるため、速やかに入退院できるよう情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアに向けて、医療機関より指導を受けている。	終末期における意向について家族アンケートを実施し、今年度ホームとしての方針を作成し、家族と共有している。医療機関よりターミナル研修を受け、職員もターミナルケア、エンジェルケアについての学びを継続的に行っている。提携医の協力と看護師の配置も整備され、ホームとしての体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練をしている。	年2回の避難訓練を施設の職員と利用者で実施している。緊急時における地域との連絡網ができており、支援が得られる体制となっている。今年度、水、乾パン、非常用食料などの備蓄をされた。	今後、自治会役員を中心とした地域住民の参加も予定されているが、各職員が「実際に逃げられるか」との認識に立ちながら、少しでも多くの地域の力を借りて多種の想定訓練が行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった声かけをするように心掛けています。	外部研修においてプライバシー尊重の研修を受け、回覧にて学びを共有している。身体拘束委員会より言葉による拘束についての周知が行われており、職員は利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい対応を心がけている。自由に出かけようとする利用者を止めずに一緒に付き添っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人それぞれが個々に自己を持って表現されている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先し、一人一人の希望に添えていないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選んだり、本人の希望を聞き、地域の理美容店へ行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや、片付け等出来る範囲で一緒に行っている。	食事の下ごしらえ、盛り付けなど利用者の出来ることをしてもらい見守りをしている。利用者の希望するメニュー、食材を取り入れながら、食べる楽しみを支援している。職員も利用者と同じテーブルにつき食事をしながら、声かけ、目配りを行っている。職員は栄養士より、栄養指導を受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、一日の水分摂取量、糖尿食、きざみ食等、表を作りその人に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来ない方は介助にて口腔ケアを行っている。また、定期的に歯科より往診もしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、定期的 にトイレ誘導、声かけを行っている。	個別に検討し、丁寧に働きかけながら、排泄 の自立に向けて導いている。おむつ外しに時 間をかけて取り組まれ、成功事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	個々に合った飲食物や、下剤を服用し調節 している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせ、入浴してもらって いる。	施設にありがちな定期的入浴ではなく、希望 すれば毎日入浴できるよう支援している。実 際にほぼ毎日入浴している利用者がほとん どである。夜間の入浴を希望する利用者がお り、職員配置により柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	個々のスタイルに合わせ自由に休憩してもら っている。居室、ソファ、和室等自由な場 所を確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	服薬時には手渡し、服薬されるまで見守りし ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を家族等に聞き、日々の生活に活か すようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出か けられるよう支援に努めている。又、普段は行けな いような場所でも、本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出かけられるように支 援している	毎回ではないが、定期的にドライブや遠足を 取り入れ外出するようにしている。	敷地内に家庭菜園があり、心ゆくまで畑で過 ごすことができる。市街地に日々の食材や日 用品の買い物に出かけている。近隣の美容 院に出かける利用者も少なくない。今年度 は、日帰り温泉旅行を実施した。また、個別 に誕生日には行きたい場所や食べたい所へ お連れする支援をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は自分でお金を所持し、職員と一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをしておられる。電話もかけたいときにかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電球は柔らかい色を使用している。ホールが台所と面しており生活音があり生活感を感じられるようにしている。	江戸時代の大きな梁を活かしたつくり、年代物の家具や装飾品により独特の落ち着いた雰囲気がある。節電のため、こまめに照明を調節しているが、明るさは適当と思われる。和室についたてを置きプライベートな空間を作る、居室入口の廊下に一人用ソファを置くなど個別に検討している。	花の好きな利用者に野の花などを活けてもらい、ホームに季節感を採り入れてみてはいかがでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室もあり自由に過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを部屋に置いたりして工夫している。	居室は、利用者本人、家族、担当で相談しながら整えていく。筆筒や文机、テレビや加湿器など思い思いの物品を持ち込むほか、フローリングに置き畳を敷いたり、暖簾、カーテンを好みの物に換えるなど、利用者にとり居心地のよい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や風呂場、トイレなどに手すりをつけ、安全面に配慮している。		